



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 8 R6.07.15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)



学校 HP

## 夏だ！ 今こそ主体的に、そして丁寧に生きよう！

まもなく夏休み。期末考査、進研模試と続きましたが、それ以降は比較的自分の時間が戻ってきたのではないのでしょうか。夏休みに入るとまた少し解放感が味わえるでしょう。その分、主体性を発揮して日常生活をコントロールしてほしいと思います。

夏に“祭り”が行われる地区もあります。それはそれで楽しいものですね。定かではありませんが、そもそも祭りとは「間を釣る」つまり、“ハレ”と“ケ”、“日常”と“非日常”をつなぐ意味があると聞いたことがあります。

それに引き寄せて言うと、皆さん一人一人が“日常”と“非日常”のバランス＝“間”を釣り合あわせてほしいと思います。夏休みという“非日常”の時間を丁寧に過ごしましょう。自分にまかされ、主体性が要求される大切な日々です。

3年生にとっては待たなしの状況ですね。目的意識と強い意志をもってこの40日間を過ごしてください。受験勉強の過程で得られるものは思う以上に大きいものです。きっと自分の可能性に気づき、精神的に大きく成長することができるでしょう。

1・2年生は、今の学力よりも2ランク上の大学を目指した生活をしてほしいですね。受験直前、レベルを落とすことはあってもあげることはあまりありません。今、この時期から選択肢を狭める必要はありません。少し上を意識して自分のやりたい勉強を比較的自由にやれる1・2年の時期を大事にしてください。特定の教科や教材、読書、課外活動など、自己課題を解決する時間と余裕がそこにはあるはずです。

いずれの学年にしても、勉強というのはやっている時はそれがこの世の全てであるかのような気持ちになるものです。しかしそれは実のところ人生の通過点に過ぎません。

以前、高校時代から起業した卒業生のEさんや高校生鷹匠として活動したIさんを紹介したことがあります。(TAKE OFF press 令和5年7月1日号、10月15日号。HP参照) この2人に共通するのは「勉強は目的ではなかった」ということです。「いい大学へ行きたい」「いい成績をとりたい」というのではなく、Eさんにとっては授業はアイデアを生み出すヒントに出会ったり、大人(教師)や他者(友人)とディスカッションする大切な時間だったし、Iさんにとっては分からないときにはどういうふうに調べるのか、どういうふうに考え方を整理すればいいか、そういう学び方を学ぶ時間でした。つまり2人にとって勉強とは目的ではなく、人生を切り開く手段だったのです。

武雄高校はそういう力を育てる学校だと思います。

## 探究活動展開 ーフィールドワークで思考の射程を広げるー

1・2年生は自らの興味関心に応じて地域社会・学際領域のフィールドワークに挑戦する時です。地域社会の様々な業種の方々や専門分野の方々と多くの交流を持つことはそこで



得られる内容はもちろんですが、心の中に広い空間を持つ経験になります。

そこでは想像力も鍛えられます。デジタル化の時代にあっては想像力が育ちにくいのではないかと心配な面もあります。情報量が多ければ多いほど想像力を働かせる余地は乏しくなるからです。漫画より小説（本）のほうが想像力を喚起してくれるのではないのでしょうか。漫画で育った世代からは優れた漫画家は生まれないと耳にしたこともあります。



想像力を豊かにするためには、自分とは異質なものと出会う機会を可能な限りつくることです。フィールドワークはそういう機会にもなります。こうした経験のある人とない人では大学に入ってから伸び方全然違います。探究の経験はその後の学びに関係してくるのです。

もちろんそこには失敗はつきものでしょう。アポの取り方から調査の方法、分析内容、、失敗するのは当たり前です。失敗と修正を何度も繰り返してそこから発見が生まれます。受け身の学びではなく自分でやってみること、たとえ失敗してもその原因を自ら考えることで、たくさんのことを学ぶようになります。

きっとこの夏、皆さんはうんとしなやかでタフな人間になれることでしょう！

## 夏のフリーウェアデー -自分で考え、実行する-

夏の補習期間を使って「制服を基本としながらも私服での登校を可とする」取組を実施することにしました。少しだけですが非日常を拡大します。この取組の中で皆さんの“大人な”感覚をもっと高めることができるのではないかと期待しています。



- 趣旨目的 ①自由と規律を考える  
②自己選択・自己決定の責任について考える  
③多様性・共生社会を明るく前向きに生きる
- 内容 「制服を基本に、私服着用も可とする」  
・私服着用の場合は公共交通機関利用時をイメージ  
・制服以外の規定は平常時に準じる
- 期間 前期補習期間（7月22日～8月1日）のうち全学年がそろう4日間

実施の目的等は左のとおりです。私服を強制するものではありませんので改めて購入することはありません。制服をそのまま着用する

るにせよ、私服を着用するにせよ、自ら考え判断し実行してほしいのです。

事前に生徒会の皆さんや先生方、保護者の方々から意見を聞きました。「服を選ぶのがめんどくさい」「友達からどう見られるか不安」「主体性とか人権とかを考えるいいきっかけになる」など様々。

だからこそやってみることにしました。わずか4日間ではありますが、皆さんの思考の射程をひろげるきっかけになればと思っています。

一人一人が互いの存在を認め合える温かな学校であることを願っています。

### 【当面の主な予定（7月後半）】

- 19日（金）終業式
- 20日（土）全統マーク模試 21日まで
- 22日（月）前期補習開始  
（3年：8/1まで）  
（1・2年：7/22, 23, 30, 8/1）
- 27日（土）3年個別大模試

（閑人閑話）NHK大河ドラマ『光る君へ』が見逃せない。平安時代に千年を超えるベストセラー『源氏物語』を書き上げた紫式部を主人公とした、変わりゆく世の中を変わらぬ愛を胸に生きた女性の物語とでも言おうか。▼道長と紫式部ってそういう仲だったのかと半信半疑な思いもあった。しかし、史実と史実を想像力でつなぎ織り上げたドラマだと思えば、脚本家のスケールの大きさを感じる。▼少し前の回で夫宣孝とまひろ（紫式部）の夫婦喧嘩があった。そのくだりで、まひろが書いた恋文を宣孝があちこちに見せ歩いたことに腹を立て「全部返せ」と言う。そして「返してくれなかったらもう手紙は書かない」と怒る。▼手紙は書き手の能力や性格を知る格好の材料だ。実際の歌のやり取りを確かめてみると怒った後の歌の贈答では、季節にふさわしい詞や古今集以来の題材をうまく使いこなし、夫婦喧嘩ではあるが他の女に見せてもよいくらいに整った歌になっている。（清水好子『紫式部』岩波新書）賢くてしなやかで、そしてタフな女性像が垣間見えた。▼古典を仕事の種にする者の一人として、これを高校生につなげられないか、思案しながら、毎回面白く見ている。皆さんも見たら源氏物語を読みたくなるか（昌）